

今後の市政における3つの重点事項

その① 『教育』

高度に発達した複雑な現代社会においては、子どもたち一人ひとりの個性や特性の基礎づくりをしっかりと行う必要があります。次代を担う子どもたちの教育を充実することは、必要な基礎学力の習得もさることながら、生きる力を育むうえで非常に重要であります。そのためには、児童生徒に配備したタブレット端末を最大限に活用し、IT・教育関連企業等の協力も得ながら、一人ひとりに応じた最適な教育を実施し、教育先端都市を目指します。

また、小学校の副教科担任制を進め、授業の質を高めるとともに、教員の負担軽減を図ってまいります。軽減された時間を有効に活用し、これまで以上に子どもたちに寄り添い、向き合った教育を行い、教育の質の向上を図ります。



▲タブレットを使った授業

その② 『地域医療』



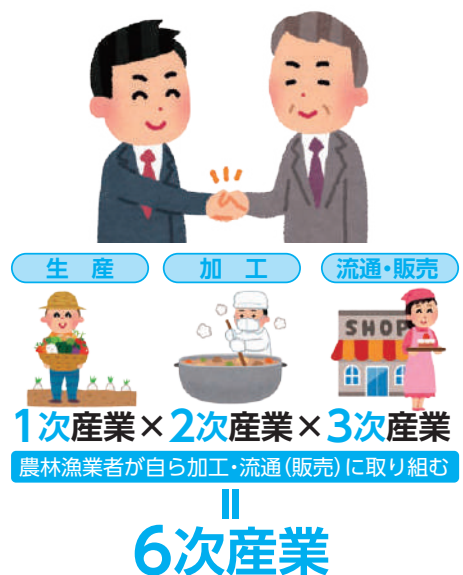
▲新半田病院イメージ図

市民の安心・安全な暮らしを確保するためには、急性期から回復期、療養期までの医療を安心して受けられる環境が必要であり、選ばれるまちとなるための重要な項目になると考えております。半田病院は、その中心となって24時間体制で高度救急医療を提供する使命があります。新半田病院は、令和7年春の開院を目指し、計画的に事業を進めてまいります。また、今よりも更に高度医療を提供し、信頼され親しまれる病院にしていくための検討にも着手いたします。阿久比町内のアクセス道路の整備については、早急に阿久比町長と会談を持ち、あらためて命の道の必要性を訴え、ご理解いただけるよう調整を図ってまいります。

その③ 『経済対策』

持続可能な社会を構築するためには、地域経済の活性化は不可欠であります。企業誘致については、セントレア・衣浦港・知多半島道路といった運輸面のメリットや良好な住環境など本市の立地の強みを私自身がトップセールスを行い、誘致を促進するとともに、市内雇用を生みだしてまいります。

また、地域の特性を活かした6次産業の推進にも力を入れてまいります。温暖で、海に囲まれ、緑も多く自然豊かなこの知多半島には、野菜・果物・肉・魚介など地元の食材が豊富にあります。これら地域資源のポテンシャルの高さは、農商工連携による魅力ある6次産業につながるものであり、国内はもとより、海外に展開できる特産品の開発・販売等を促進するなど地域経済の活性化を図ってまいります。



おわりに

私のモットーは、「やれない理由を並べるのではなく、やれる可能性を探し出す」であります。この姿勢を職員に浸透させ、新しいことにチャレンジする、チャレンジできる気風を築いてまいります。また、榊原純夫前市長が取り組んでこられた「現場主義」を継承し、職員とともに実践してまいります。